

SDGs スタートアップ研究分科会
アドバンスコース第3回情報交換会 実施報告

2021年12月8日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る11月19日(金)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第3回情報交換会を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2021年度SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要
2. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗大師教会 和歌山教区＜三密教会＞（SDGs 理念共有のハウスシェア、持続可能なくお家＞活用）
3. フリーディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2021年度SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019年10月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続きSDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っているSDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しています。

去る10月15日(金)、2021年度SDGs スタートアップ研究分科会のベーシックコース第1回（キックオフ）の会合を開催しましたのでご報告いたします。

詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

[20211101_SDGs_Startup_Basics_Report.pdf \(pmi-japan.org\)](https://www.pmi-japan.org/20211101_SDGs_Startup_Basics_Report.pdf)

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として2019年度、2020年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されているSDGプロジェクトを対象としています。すでにSDGs事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図1にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

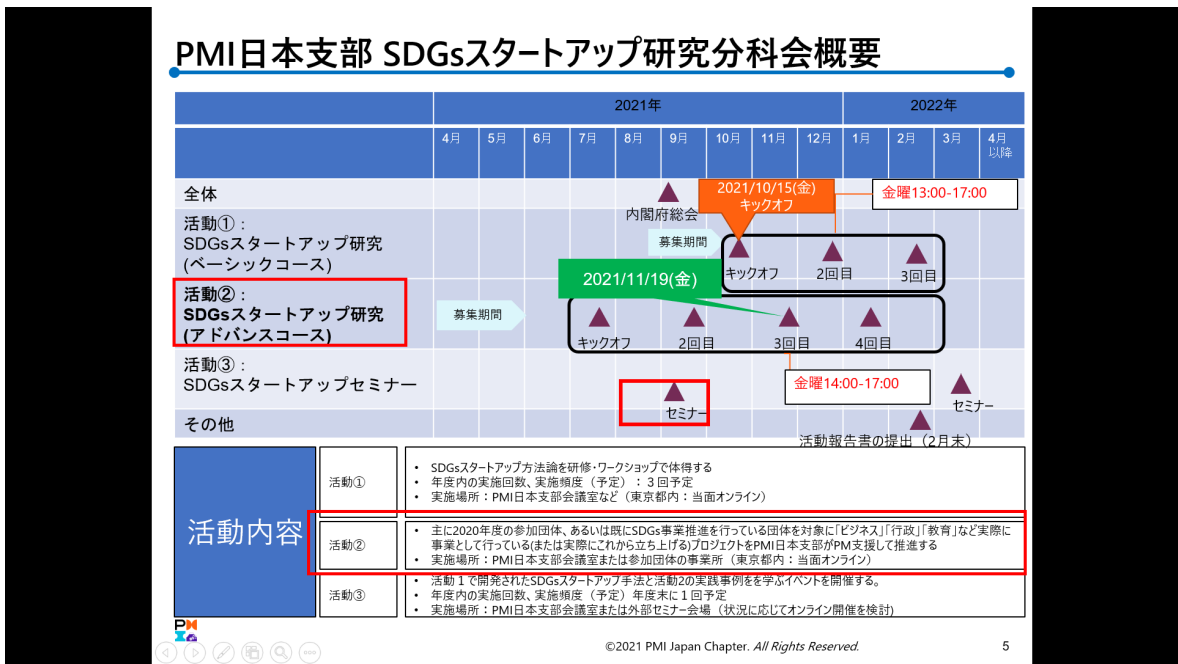


図1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2 アドバンスコース参加団体の情報交換

現在アドバンスコースに参加されているのは4団体です。

4団体にSDGs取組み状況をご報告いただきました。

a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）

（報告：舞鶴工業高等専門学校 校長 内海康雄氏）

・情報交換会3回目での活動内容の概要説明のほかに、2020年度の活動のまとめ、2021年度の活動方針と11月までの活用状況が紹介されました。

2021年度の方針として、

1. SDGsスタートアップ手法の活用でリーンキャンバスを改訂し、全体を描写する、ソリューションとSDGsとのマッピング、ESG分析により投資と結び付ける、

ターゲット設定、ロジックモデルを作成し、ベネフィットリストの作成などで再度、受益者への価値提供を検討する。

2. 新たな連携と外部資源の獲得などを推進する。
などです。

2021年11月までの活動として、

1. 舞鶴市との定期会議を実施中。舞鶴高専として水位予測手法の開発、地理データ取得を継続中で、新規スタッフも参加され推進中です。
2. WBSの改訂、新プロジェクトについては、WBS、課題・リスク管理表を作成中です。(PMI日本支部支援中)
3. 地域のステークホルダの連携に向けて定期会議の立上げ準備中とのことでした。
4. 新たな助成申請の検討で、
トヨタ財団からの助成金は採択され、「(一社)京都知恵産業創造の森」も申請済みで1件採択されました。

b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム [river]

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）
企業版ふるさと納税を利用した地域課題解決プラットフォーム[river（リバー）]という名称で、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度利用のためのコーディネートを得られるサービス」を提供しています。

2021年度 11月までの活動状況として。

- 1.大阪府のスマートシティ構想で企業版ふるさと納税を活用する。
- 2.内閣府連携のマッチングで熊本県→中部地方→鳥取県→奈良県まで終了し、今後更に栃木県→長崎県→沖縄県→北海道に拡大展開する予定。
- 3.奈良県での企業版ふるさと納税プロジェクトの事例紹介などがありました。

参考：

[2021/11/2（火）奈良県企業版ふるさと納税連絡協議会「企業×自治体 マッチング会」開催しました！ | お知らせ | 企業版ふるさと納税活用で地域課題解決 | river \(cpriver.jp\)](https://cpriver.jp)

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

（報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏）

- ・有限会社ウイルパワーの活動目標、原点が明確化され、SDGs スタートアップ手法を活用して、リーンキャンパスの作成、ロジックモデルの検討を通じての気づき、課題へのチャレンジを紹介されました。

有限会社ウイルパワー 事業活動 『循環ビジネスの社会的役割の実施』

スタートアップ方法論を活用したビジネスプロセスの11月までの検討経緯を説明

1. PMI日本支部のサポートメンバーの協力を得ながらリーンキャンバス作成、独力で最初のリーンキャンバスを作成し、その後サポートメンバーと協議しながら、2回目、3回目のリーンキャンバスを作成してきた。
2. 今年の活動報告として、香川県より「香川県環境配慮モデル事業所」として認定、環境省グッドライフアワードギャザリングに登壇、全国保険協会より「健活企業」として認定、岡山県より「経営革新計画」の承認、おかやまSDGsアワードを受賞しました。

d.高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会>(SDGs理念共有のハウスシェア、持続可能なくお家>活用)

(報告：高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会> 浅田慈照氏)

- ・ プロジェクトテーマは SDGs 理念共有のハウスシェア、持続可能なくお家>活用で、高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会>は、平成24年に女性僧侶の育成をすするため教会として立ち上げたグループで、約3600ヶ寺の高野山真言宗をコアとして、もっと拠点としての活用も検討できる。
今回の主題は「お寺の取説・僧侶の取説」で使えば最強！けれど見えにくい業界<お寺>ということで、日本全国にある、約3600ヶ寺の高野山真言宗寺院をもっと利用、活用するアイデアを募集とのことでした。

3. フリーディスカッション

今回は、各団体からの発表内容や質問に対して全体としてのフリーディスカッションを行いました。

<三密教会>のお寺、寺院の活用に関して、参加者からいろいろなコメント、提案がありました。

コンサートや絵画展の実施、古くからの樹木が残っている。生態学的な価値がある。防災拠点としても考えられる。民泊、旅館接客業としてやっているお寺もある。などです。

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問い合わせください。

PMI日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)